
窓

5 0 5

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
窓

【Nコード】
N6527P

【作者名】
505

【あらすじ】
10年間開かない窓
その理由は

3丁目の角に赤い屋根の家がある

その西側の2階にある窓はもう10年は開いていない

10年前に窓としての役割を終えてしまった：

10年前、その部屋に住む彼は受験勉強で家にこもり
一日の殆どを部屋で過ごした

その日も変わらず机に向かい、同じ事をいつも通りにしてただけ。
他には何もない。

ただ、睨み付けるように教科書を見ているだけ。

風の僅かな音でさえ雑音に感じながら

ただ一日が流れた：

どのぐらい時間が経っただろうか

小学生の下校の群れが見え始めた頃、不意に窓を開けた

開けると同時に目が合った

ただ、気がつくまでに多の時間がかかった

他の誰でもない、確実に自分を見ている

声も出さず、瞬きさえしていないように見えた

まるで電信柱のように、地面に固定されているかのように動かない

ただジッとこちらを見ている

よく見ると、もう1人見えた

並ぶように立っているこの人の手はガッチリと相手を掴んでいる

気がついてからは2つの視線が襲ってきた

鋭い尖ったような冷たい目とただ一点だけを見つめた何ともいえな
い目

視線に耐えられなくなった彼は窓を閉めた。

窓が完全に閉まる寸前、1センチ程度の隙間から最後に見た目から
涙が流れるのを見ながら、窓はピシッと音を立てて閉まった：

翌日、いつも見ているニュースが流れ出した頃に目が覚めた。

昨日と変わらず晴天で、何も変わらなかった。

下に行く和外が騒がしい

両親も着替えもせずに、玄関先に立っている

「どうしたの？」と迷わず聞くと

物陰から警官が出てきて尋ねる

「昨日、何か聞こえませんでしたか？」

「いえ、何も…」

即答した。

風の音が聞こえました。とは流石に言えない。

「昨日、すぐ先の路上で人が殺されてね…」

すぐに体が反応したのが自分でも分かる

何も情報を聞いていない

もしかしたら他人かもしれない

そういう可能性もありえるのに、頭の中には既に画像としてよみがえってきた

「犯人は捕まえました、どうもこの家の前を通ったらしいのですよ。」

供述によると、おそらく午後3…」

彼は逃げるように部屋に走った彼は

窓枠をガムテープで貼り、カーテンを閉めた

窓が窓でなくなり、壁となった日である

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n6527p/>

窓

2011年1月8日20時06分発行